

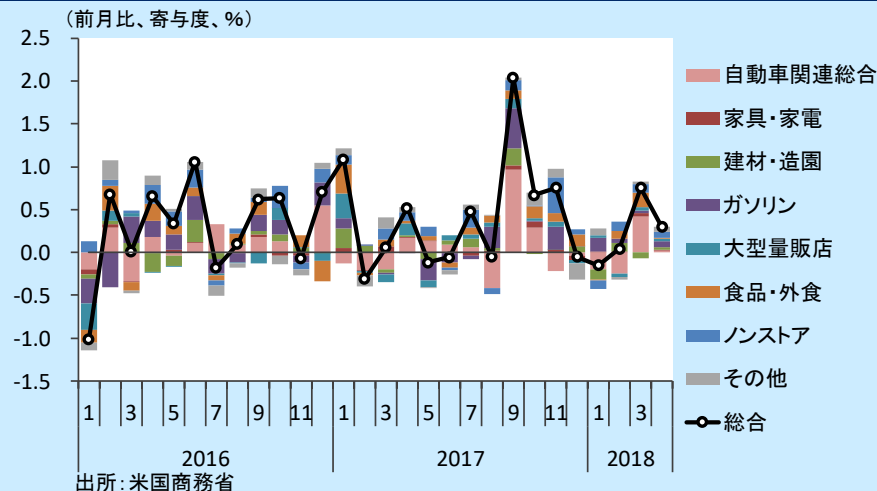
米国：小売売上高（2018年4月）

—小売売上高は2ヶ月連続の増加—

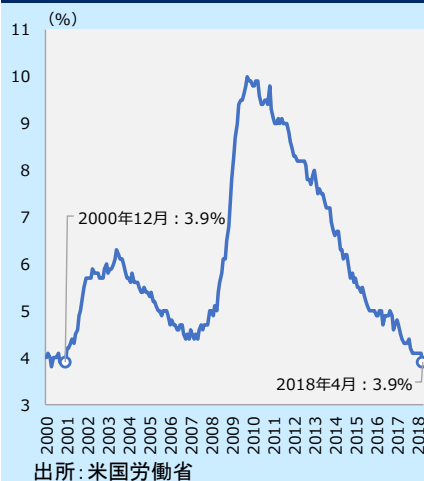
MRI Daily Economic Points

May 16, 2018

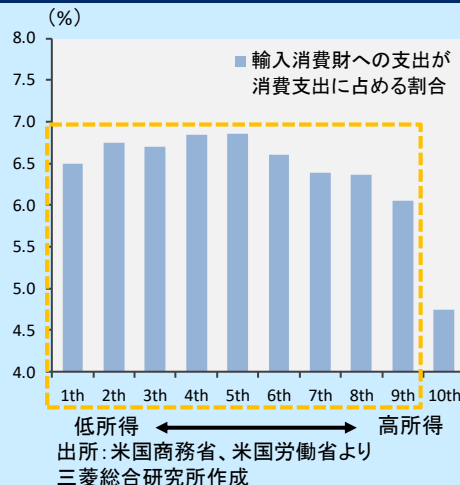
図表1 小売売上高 項目別 寄与度



図表2 失業率



図表3 輸入品への消費支出



評価ポイント

今回の結果

- 18年4月の米小売売上高(5/15日公表)は、前月比+0.3%と2ヶ月連続で増加。自動車やガソリン、建材、食品サービスを除いたコア売上高も同+0.3%と増加した。
- 内訳をみると、主要13品目のうち9品目が前月から増加。中でも、衣服(同+1.4%)が大幅に伸びた。他にも、ガソリン価格の上昇を反映したガソリン(同+0.8%)や、家具(同+0.8%)、ノンストア(同+0.6%)などが増加した。
- 一方で、健康・医療(同▲0.4%)や外食産業(同▲0.3%)などが減少した。

基調判断と今後の流れ

- 消費の基調は、底堅い。背景には、①良好な雇用・所得環境や②高水準を維持している消費者マインドがある。
- 消費の先行きは、堅調さを維持すると見込む。4月の失業率は、3.9%となり、実に17年4か月ぶり(2000年12月以来)に4%を下回った(図表2)。今後も、上記①、②が、消費を下支えするだろう。
- 下振れリスクは、トランプ政権の保護主義的な動きによる影響が考えられる。①保護主義的な動きに伴う株式市場の混乱が、マインド悪化や逆資産効果につながる場合などには、消費が鈍化しかねない。また、トランプ大統領は、通商政策に関して様々な国と二国間交渉を行う意欲を示している。②今後、そうした交渉が行われるなかで、消費財の輸入物価が上昇するような結論に至った場合、幅広い所得者層を中心に消費に悪影響が及びうる(図表3)。